

ジェンダーバランスに配慮したイベント実施のためのガイドライン

2026年4月1日 制定
山口大学長 谷澤 幸生

1. 背景

山口大学ではダイバーシティキャンパスの実現を目指して、多様性の積極的な確保と配慮、ならびに支援に取り組んでいる。

また、社会のあらゆる分野において、多様性の確保だけでなく、多様性の強みを活かすためのインクルージョン（包摂性）やエクイティ（公平性）についても取り組みが進んでいる。

企業だけでなく、大学においても上位職や意思決定機関における女性比率の増加が目標として掲げられており、今後はさらに実質的な女性の参画が求められる。

こうした認識の下、活力の源泉としてのダイバーシティのさらなる推進の一方策として、ジェンダーの公平性に関する本ガイドラインを制定する。

2. 目的

本ガイドラインは、大学内外に広く発信されるイベントの開催にあたり、登壇者（講演者やパネリスト等）が男性だけ、あるいは女性だけといった特定の性別に偏ることのないよう、ジェンダーの公平性を啓発するとともに、ジェンダーバランスに配慮することで、多様な意見が反映されるイベントとなることを目的とする。

3. 対象

本ガイドラインは、山口大学または本学の各部局等が主催するイベントを対象とする。なお、本学が共催となるイベントならびに本学で開催されるその他のイベントについては、本ガイドラインの適用を促すものとする。

4. 考えられる具体策

ジェンダーバランスに配慮したイベントとするため、以下の具体策を示す。

なお、現状として「男性のみでパネルが構成される」イベントが多いことから、具体策ではその改善を目的とした表記になっている。

※注：「女性偏在」の傾向が懸念される場合は、以下の文中、「男性」を「女性」に、また「女性」を「男性」に、適宜読み替えて運用するものとする。

(1) 企画チームの編成

イベントの企画段階から、ジェンダーバランスを意識したチーム編成をする。

(2) 登壇者の選定

講演者やパネリスト等が男性のみで構成されることがないように登壇者を選定すること。イベント全体での登壇者のジェンダーバランスに配慮する。

(3) 実質的な参加の促進

女性の参加を形式的なものにとどめず、一人ひとりの専門性等を活かした参加を確保する。例えば、登壇者である女性に対し、「女性だから」、「女性の代表として」、

「女性枠で」、「女性の観点から話す」といった依頼は避ける。また、専門性とは関連しないにもかかわらず、司会進行やファシリテーターだけを女性に設定することは避ける。

(4) 参加者募集のあり方

イベントの参加者について、子育て中の方も参加できるよう、一時保育の設置についても検討する。

なお、身体的性差に焦点をあてたイベントの場合など、個別のイベントの開催の趣旨・目的・専門性などによって、登壇者が特定の性別で構成されることを制限するものではない。

5. 今後の展望

本ガイドラインは、「2. 目的」で述べたように、まずはイベントにおけるジェンダーバランス確保を目指すものとして策定している。

最終的には、性別だけではなく、年齢、民族、障害の有無、性的指向・性自認など、さらに幅広いダイバーシティの観点から、大学全体としてより多様性・包摂性・公平性に配慮したイベントを実施し、実質的なダイバーシティキャンパスの実現を目指すものとする。